

2026年4月1日
第594号
(毎月1日発行)

咲いたネット
URL：
http://www.saitanet.or.jp
Eメール：
saita@saitanet.or.jp



発行所
埼玉県労働組合連合会
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂
3-10-11 第一木村ビル
TEL 048-838-0771
FAX 048-838-0775
編集発行人
埼玉県労働組合連合会
【定価】1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

**26春闘勝利へストや要請行動
3・12全国統一行動**

3月11日の回答を受け、26春闘最大のヤマ場となった12日の全国統一行動では、県内でも朝のストライキ決起、日中の経営者要請行動、夕方は大宮駅西口での宣伝行動と、終日にわたり奮闘しました。

午前8時30分から埼玉医労連の全日赤さいたままでストライキを含む決起集会が行われました。全日赤さいたまのスト集会には、埼労連・藤田議長始め単産や地域の役員たちが駆けつけ、連帯のあいさつで激励しました。全JCHOは、埼玉



全日赤さいたまストライキ支援

メデイカルセンターで職員に向けたビラ配布を実施しています。

JMITU埼玉地本は、3月5日の第一次統一行動に続き、東鋼業支部、日信工業支部、東京セキスイハイム支部、芝浦電子支部で経営者要請を実施。埼労連から宍戸事務局長が通し参加、東鋼業支部に草加八潮地区労、東京セキスイハイムに蓮田地域労連から役員が経営者要請に参加しました。

夕方は大宮駅西口で埼労連加盟単産の県本部役員などが32人集まり、午後5時



経営者要請 (JMITU・東鋼業)

30分から6時30分まで大宣伝行動を実施し、日中の行動の報告と訴え、チラシを配布しました。



大宮駅宣伝に32人参加



職員にビラ配布 (全JCHO)

*** 紙面から ***

- 3.12全国統一行動 (1面)
- 埼玉土建全県決起集会 (5面)
- 働くなかまの春をよぶつどい (2面)
- 働く女性の埼玉集会実行委員会・県要請 (6面)
- 26春闘地域総行動の取り組み (4面)
- 埼労共のページ (8面)

働くなかまの春を呼ぶつどい

2月22日(日)、「2026働くなかまの春をよぶつどい」(埼玉春闘共闘・労働法制埼玉連絡会・埼玉連女性部・埼玉連非正規労働者部会共催)が浦和コミュニティセンターで開催され、オンライン併用で90人が集まりました。

主催者あいさつの後、事例報告を3人から受け、介護労働者の実態について埼玉ユニオン・久保秋さんから、春日部や富士見市学童保育の指定管理問題について自治労連・畔上さんから、非正規で雇用される研究者をめぐる課題について北足立南部地区労・理研労の金井さんから、課題や労働組合への期待も含めて、それぞれ報告がありました。



今年は90人が参加

事例報告の後、解散総選挙後の情勢とあわせて、「労働基準法の解体、政府・財界のねらいとは」と題した講演を全労連常任幹事の土井直樹さんから話してもらいました。土井さんは、長時間労働をさせるため



集会後の宣伝 (浦和駅)

の仕組みとしてデロゲーション(法規制の適用除外)を容易にするための労使コミュニケーション(交渉でない形ですすめられる可能性)が広がる問題点について訴え、途中では隣りどうしの席で話し合う時間も設け、労働基準法を解体させないための取り組みとして、学習や署名が呼びかけられました。

つどい閉会後には弁護士などによる労働相談活動がおこなわれ、6人が相談。ほかの参加者は浦和駅東口に向かい、学習した中身や職場の実態を訴えながら、権利手帳などを配布しました。

(つどい集会実行委員会発)

第97回埼玉県中央メーデー

『第97回埼玉県中央メーデー』を2026年5月1日(金)に北浦和公園で開催します。

1日が市民の日で、市内の公立の小・中学校は休みなので家族連れでの参加も歓迎です。

また、県内各地域で地域メーデー(日程・会場一覧はHPに掲載します)も開催されます。

お住いの地域メーデーへの参加も含め、メーデー成功への協力をお願いします。

ゴールデンウィーク谷間の平日ではありませんが、青年・次世代層の仲間の参加を意識し、大勢で越してください(さいたま市は5月1日(金)です)。

日時 5月1日(金)
会場 北浦和公園
開会 10時(予定)
終了後パレード(県庁まで)



第96回メーデーの様子



生活できる賃金求めストライキ

JMITU第1次統一行動

JMITU埼玉地本は、3月4日(水)を26春闘の回答指定日に設定し、各支部で団交が行われ

ました。第1次回答の結果は、単純平均で1万1819円(3・4%)、加重平均で1万1286円(3・7%)となり、昨年の初回

答より上回っているものの、要求した金額には程遠く、物価高騰に全く追いついていません。

翌3月5日(木)は、埼玉地本第1次統一行動としてリリーストライキを展開し、朝から夕方まで東鋼業支部、東京セキスイハイム支部、大東工業大宮工場分会、日



日信工業ストライキ

信工業支部、芝浦電子支部へスト支援・激励行動を行いました。

埼玉連から六戸事務局長が終日参加したほか、各地域労連や埼玉合唱団からも激励に駆け付けていただき最大で29人名の激励団となりました。

東鋼業支部では会社の業績が悪く、生活が大変と訴えて30分の指名ストを決行。東京セキスイハイム支部では人事制度が改定されるなかで定昇3000

0円の様子見回答に怒りの1時間ストライキ。書記長の元気な司会



東京セキスイ 経営者要請 (12日)



行動後は宣伝に結集

で合唱団の歌も大きくなり団結が深まりました。

大東工業大宮工場分会では、アメリカによるイラン攻撃を非難し上積み回答を求める決議を上げる1時間のスト。日信工業支部では1万3000円の回答に対しても

要求に満たないとして30分のストライキ。芝浦電子支部は移転したばかりの新社屋内の会議室で激励集会を成功させました。

翌週の3月12日(木)の全国統一行動では経営者への要請行動が中心となりましたが、諸要求実現に向け、さらに闘争を強化して頑張っていく予定です。

(JMITU埼玉地本発)

生活できる賃金水準に理解

商工会と懇談(比企労連)

比企労連は、1月27日(火)に9地域にある自治体の商工会を4人で2班にわかれて訪問、懇談を行いました。懇談項目は、①物価高騰などを受けた会員の状況変化について、②1141円に引きあ

がった最賃の影響、③「最低生計費試算調査」結果について、④経営難に対する行政に望む中小企業支援施策等についてです。懇談では物価の高騰や最低賃金の引き上げに対して、一定の理解を示しながらも、商品に転嫁しにくい状況があり、どこでも経営に苦しんでいる、「値上げをすれば客離れが進むのではないか」と不安がぬぐい切れていない」と発言。東松山市では市からの補助金が10%削減されたこともあって厳しいという話もありました。

当日持参した「最低生計費試算調査」の結果について説明すると、必要な生計費は実際にそれくらいになることについて理解を示してくれました。労働組合がそういう要求を出すことについては当然という声もあり、現在の状況では生活費を削って生活することを余儀なくされていることを説明すると、納得していました。

(比企労連発)

どこの商工会でも、自治体や国に対して「制度の変更でみんなが救われる施策が欲しい」という話でした。圧倒的に中小零細企業が多いなか、消費税の飲食料費だけゼロでは、飲食店などが影響を受



東松山商工会と懇談

26春闘・地域総行動の様子

蔵地区労協

2月22日(日)、「草の根要求実現・蔵地域行動」を中央公民館で開催し、77人が参加。頼高英雄市長、共産党・鈴木智市議団長が駆け付けました。

今年は「今こそ職場・地域から声を上げ、対話と共同を広げ、国民の願いに応える社会・政治を実現しよう」をテーマに学習をしました。

アメリカ言いなりの自民党高市政権の危険性について、大軍拡の現状、安保3文書、スパイ防止法制定、憲法改悪の内容について、



77人が参加 (蔵)

2月22日(日) 午前10時から「入間東部住民大集会」が行われ、19団体178人が参加し。今年、富士見市の学童保育を守る運動を支援するため、会場をふじみ野市から富士見市に移しての開

入間東部労連

蔵行動終了後は、駅西口に移動し、市民向け宣伝行動を実施し30人が参加、リレートークと横幕やプラスターを掲げてのスタンディングを中心とした宣伝行動でした。



富士見学童を守ろうと178人が参加

催でした。

各団体の一言アピールを受け、行動提起・集会アピールを提案した後、デモを行いました。デモ終了後には学童労組の駅宣伝、地域チラシ配布に協力しました。

深谷寄居地労連

2月25日(水) 深谷市藤沢公民館において、午後6時30分から「26春闘深谷寄居地労連・地域総行動」が開催され10団体40人が参加。今年の総行動は、「学習と交流」に重点を置き、地域組織として要求を持ち寄り相互支援につな

がる学習会であり、要求討議が困難な組織とともに運動のヒントを得られるようなものとしてグループ



グループ交流を实践 (深谷寄居)



民主団体なども参加 (草加地域)

プ交流をおこないました。

付箋を使ったグループ交流では、講演を聞いて①知らなかった・へえーと思ったこと、②このままだと不安だと感じたこと、の意見を出し合い、付箋に書き出しました。どのグループからも多くの意見が出され付箋が次々に貼られていきました。最後に26春闘を大いに奮闘していこうと「アピール」が採択されました。

草加八潮地区労

草加地域では2月26日(木)午後6時30分から草加市勤労福祉会館会議室で「26年国民春闘草加地域総決起集会」が開催され、13団体54人が参加。地区労のほか、革

新懇、平和委員会、医療生協、新婦人、市教組退職者の会、政党(立憲民主、共産)など地域の民主団体も参加しました。

各団体からの報告では、「仕事への責任、負担は大きい、それに対する賃金は低く生活は厳しい、仲間の助けがあつてこそ、この仕事を続けられている」、「有給休暇をすべての職員が適正に取得できる職場環境を整備すること」、「人手が足りない。募集をかけても入ってこない。会社の経営が厳しい」などの報告がありました。

集会最後のアピールでは、「団結は力です。ひとりで悩まず、ひとりで判断せず、労働者同士が団結して声をあげることで、労働者・国民の共同を職場や地域に広げましょう!」と確認しました。

今年の地域総行動は、県内45カ所で行った(雨天により中止の場所あり)され、労働組合や民主団体を中心に、地域の住民に春闘の取り組みを見せ、「みんなで声を上げて平和で暮らしやすい社会をめざそう」とアピールする決起の場となりました。

スタートダッシュで組織実増へ 埼玉土建 春の全県決起集会

埼玉土建は2月1日(日)、2026春全県決起集会を開催しました。本部会館と各支部事務所をオンラインでつなぎ、全体で655人の仲間が参加。

小峰委員長はいさつの中で「いよいよ春の拡大月間が始まった。なぜ私たちの思うように政治が進んでくれないのかという不満の声があがっている。月間目標を達成して増勢を勝ち取り、要求実現に向かって進んでいこう」と訴えました。

古川組織部長は拡大の訴えで「情勢や全県の教訓、特徴に学び合い、実践にいかして、一人ひとりの仲間が知恵と力を出し合いながら、年度末実増を勝ち取り『全支部・全分会達成』を合言葉に仲間の先頭に立って奮闘しよう」と呼びかけました。

その後、3支部から典型報告が行われました。岩槻蓮田支部からは、組合制度を知らずに申請できない仲間を対話でなくす取り組みについて、加須支部は、脱退防止

と定着を強め、年度末組織実増をめざす取り組みについて、坂戸支部からは、5年後をリアルに想像して、若手結集に本気で取り組んでいることが報告されました。

典型報告の後、各支部の代表、青年部、主婦の会が決意表明を行い、最後に、寺田本部青年部長による「ロケットスタートを成功させ春の拡大を成功させよう」との掛け声で団結ガンバローを行い、決意を固めました。

(埼玉土建発)



全県から655人が参加

埼教組が冬のコンパニーを開催

埼教組は2月23日(月)に、組合員対象の「冬のコンパニー」を実施。30人が参加しました。

前半は教育実践の学習。元埼教組組合員で、現在は大学で教師を志す学生たちを指導している小磯政行さんを招き、「学校は楽しいところ！遊び(心)でつながる学級づくり」と題して講演してもらいました。

子どもたち同士がたくさん関わる遊びを通して、意図的に集団作りを行うことの大切さを、参加者

自身が子どもになったつもりで体験して学び合いました。

「効率ばかりが重視されがちだが、一見無駄に思えるようなおしゃべりや遊びこそが人をつなぐ」という小磯さんの言葉は参加者の胸に深く響きました。

後半は組合員手作りのスイーツなどを食べながら参加者どうしそれぞれの思いをたくさん語り合いました。

今年度新規加入した組合員の話をもみんなで聞いて、改めて組合が

3・5中央行動に全国から2000人

3月5日(木)、全労連・国民

参加がありました。

春闘共闘委員会、建設アクションが共済し、2026年春闘3・5中央総決起行動が国会付近や日比谷公園などでおこなわれ、全国から2000人を超える仲間が参加しました。

「全国一律最賃制度の実現を求め」要請署名は、埼玉連から2万6843筆を送り、当日の国会議員要請行動では、署名の紹介議員になってもらうための要請にまわりました。

当日は、朝から各産別の独自行動、決起集会と国会請願デモ、議員要請行動がとりくまれ、埼玉からも単産県本部役員などを中心に

今後、特別国会会期中に、埼玉選出の国会議員に向けた独自行動も取り組む予定です。



つながる学級づくりを学習



国会議員要請行動

みんなで思いを分かち合える大切な場だと実感を深めました。

(埼教組発)

ローリングバレーを体験(春日部労連)

春日部労連は、2月21日(土)に、春日部特別支援学校の体育館を借りて、「ローリングバレーボール」体験をしました。次世代集會を開く前に、事務局メンバーで「バラスポーツはどんなものか、楽しいものか、みんなが参加して盛り上がるのだろうか。とにかくやってみないとわからない」と重い腰をあげて、準備会でやってみることにしました。

春日部地域労連発
バレーボール」。コートのネットが低く、ボールを高く上げるのはだめ。転がす、相手に当たったら、反則で相手ボールになるなど。基礎を教わり、あとはやりながらルールを覚えることに。

初めてやってみたらほんとにおもしろいし、汗をかく。仲間の協力なしにゲームは楽しめない競技で、「もう一度機会があったらやりたい」と参加した組合員が話っていました。本番の次世代集會に



準備会で体験

向けて、日程などいろいろと調整していきます。

(春日部地域労連発)

介護セミナーを開催(所沢ケアユニオン)



石井さんの講演

埼玉医労連や所沢地区労で取り組んでいる所沢ケアユニオン実行委員会は、2月15日(日)に介護セミナーを実施し、11人(オンライン含む)が参加しました。

今回のセミナーは「認知症を学ぶ」をテーマに医療生協さいたま老人保健施設さんとあわせて学習会を開催しました。講師は、さんごめ介護長・石井里実さんで、認知症の人を取り巻いてきた背景(歴史)から正しい認知症ケアについて

講演してもらいました。ケアなきケアの時代から権利擁護の取り組みが始まり、現在に至る国の制度を含めて総合的に話してくれました。また、認知症ケアにおける倫理として介護者が認知症ケアを行ううえで守るべきものなどにも触れてもらいました。講演中に事例を紹介して現地2グループ、オンライングループに分かれ討議し、感想交流を行いました。講演とグループ討論で認知症について深めることができました。

(埼玉医労連発)

埼玉県に教育費の負担軽減求め要請

働く女性の埼玉集會実行委員会

2月25日(水) 11時から、働く女性の埼玉集會実行委員会が、埼玉県産業労働部雇用・人材戦略課へ、要請行動をおこないました。

参加は実行委員長の新婦人・高田会長と民労、コープネットグループ労組、埼玉連婦人部協議会3人と埼玉連渋谷幹事の7人で、県からは企画・労働団体担当の副課長、主幹、主査の3人が対応しました。

今年、全労連「女性労働者健康調査」と埼玉協「全国業者婦人の実態調査」の結果と実行委員会団体の声をもとに要望書を作成しました。7項目の内容は①ケア労働者の処遇改善と人員不足解消支援、②医療資材高騰による公費負担の支援策、③子ども医療費助成制度の年齢引き上げ、④中学校含む学校給食無償の予算化、⑤不登校児童生徒も誰もが行きやすい学校作り、⑥教育費の負担軽減策、⑦保育所・学童保育に関わる予算の大幅増額と安易な代替事業(外部化)反対、⑧介護保険サービス

の拡充、⑨インボイス制度廃止、国保の傷病手当・出産手当制度の確立、所得税法56条の廃止、⑩「困難な問題を抱える女性への支援法」の幅広い周知、⑪最低賃金額いまずぐ1700円、中小企業への独自支援策、⑫県職の女性半数の管理職への雇用と男性育休制度の率先実行、ハラスメントILO190号条約への早期批准に向けた施策です。学童保育の項目では自治労連の作成した富士見のチラシも資料としながら、学童保育で働く労働者が雇用先の変更により大幅な賃金改悪が起ること、子どもたちにも経験豊かな指導員が必要なことを含め、学童保育の指定管理者制度や業務委託が広がらないように訴えました。

短時間でしたが、県庁内の関係各所へ通達・周知をおこなうとのことでした。その後、男女共同参画課へも要望書の内容報告をおこない、理解をいただきました。

(実行委員会発)

思想と信教の自由を守る 2・11埼玉県民集会

2月11日(水・祝日)、「軍国主義思想の復活に反対し、思想と信教の自由を守る2・11埼玉県民集会」がおこなわれ、雨の中、会場いっぱいとなる125人が参加しました。

埼玉歴史教育者協議会の佐々木孝夫さんは、基調報告で1966年の「建国記念の日」制定から続く不承認運動が60年となった今年、総選挙で自民党が3分の2以上の議席を占める極めて危険な状況だとして、「私たちが警戒しなければならぬのは、同調・賛成・支援する社会的な空気が広がること」で、「私たちにできることは星の数ほど学習会を開き、社会の隅々に『平和のとりで』を築くこと」と呼びかけました。

その後の講演では、小樽商科大学名誉教授の荻野富士夫さんが話をしてくれました。

「『新しい戦前』という言葉に多くの人が共感する中、総選挙の結果も受けて、現在は『新しい戦中』の前夜になりつつある」と指

摘しました。そして、法制化され

そうな「スパイ防止法」の危険な中身や歴史的背景について解説し、「極端な思想の人たちの名のもとに普通の人たちを排除してしまふ『戦争国家』にさせてはならない」と警鐘を鳴らしました。

集会終了後は、浦和駅西口までパレードしながら「戦争反対・平和を守ろう」と街ゆく人にアピールしました。

(2・11集会実行委員会発)



会場いっぱいの参加

大きく育つ組合セミナー(自治労連)

自治労連埼玉県本部は2月22日(日)、さいたま共済会館を会場に「大きく育つ組合セミナー」を開催。今回は「単組ニュースの発行促進」と「新採職員の加入対策」をテーマにし、単組役員と書記21人が参加しました。

26春闘スローガンに「組合をもっと知ってもらい変化を起こそう」を掲げ、組合活動の「見える化」を重視しています。いま単組ニュースは、「圧倒的な時間不足」や「二人で抱え込む」などの

問題があり発行が滞っています。

セミナーの冒頭に、「執行委員会の時間の一部を『編集会議』にしよう」と、「一人で孤独に作るのではなくみんなでワイワイと楽しく作ろう」「組合の『お堅い』『難しそう』というイメージを変えよう」「声が集まる双方向のニュースを作ろう」といった問題提起を行ったのちにグループワーク。

4人1組が単組執行委員会をしている想定で、記事選びや紙面構成を行いました。ふだん編集会議

とめよう原発3・7集会

3月7日(土)の午後、原発推進・再稼働に反対する『フクシマから15年 とめよう原発3・7集会』が開催されました。

代々木公園で開催された集会には、全国区から8500人が集まり、埼玉から埼玉連加盟の労働組合や医療生協といった、新婦人など300人が参加しました。集会では、いまだに避難生活をしている状況などが報告され、集会後は

外苑前まで「原発いらぬ、再稼働反対」「福島復興と原発ゼロの社会をつくろう」とコールしながらパレードしました。

福島第一原発事故から15年経った今でも収束のメドすら立っていません。昨年8月1日の福島県の発表では、依然として2万4000人が避難生活を強いられています。参加者から怒りの声が上がりました。



編集会議を実践

をしない単組が多く、「こうした企画をもっとやってほしい」との前向きな感想が聞かれました。(自治労連埼玉県本部発)



埼玉から3000人



4月・5月の上映案内

埼玉映文協の4月の上映(23日・木)は、「ペコロスの母に会いに行く」です。

62歳で漫画家デビューした岡野雄一氏の原作をもとにしていま

離婚して子連れで故郷の長崎に戻った主人公ゆづいちと、85歳になりグループホームで暮らす認知症の母みつえの心温まる日常を描いています。原田知世と原田貴和子が約20年ぶりに姉妹共演も果たしています。

5月の上映(26日・火)は「春との旅」。故仲代達也さん追悼企画です。

4月の北海道、孫の春に面倒を見られながら静かに余生を過ごす元漁師の物語です。

主演の仲代達也を囲むのは徳永



- ① 10時30分
- ② 14時
- ③ 18時30分

【上映開始時間】
【会場】 埼玉会館小ホール

*埼労共専用の当日精算券を利用した場合900円で鑑賞いただけます。
映画に関するお問い合わせは、埼玉映文協まで

TEL 048・8222・7428

全労連共済

◆春の組織拡大月間 共済を活用しよう！「プレモキャンペーン実施中」

埼玉連の春の拡大月間にあわせて3月〜5月の3カ月間、キャンペーンをおこなっています。

「共済」を組合メリットとして打ち出し、組合員拡大のツールとして活用しましょう。

①学習会の推進として、期間中に3人以上の学習会(相談・説明会含む)をおこなった組織にはお菓子・お茶代を補助します。

②全労連共済の拡大推進として、加入者ごとにクオカードを進呈します。

◆全労連共済「年金共済」は資産形成として

「年金共済」は、組合員だけが加入できる貯蓄型の保険であり、資産形成としても活用できます。

年金共済のメリットとして、①生命保険料控除の対象で所得税・住民税を軽減できます、②請求時に

受け取り方法を選べて、教育資金



フードバンク118便



フードバンク119便

フードバンク 第118便・119便

年明けのフードバンク活動では、熊谷地域労連から届けられた味噌その他、SUから海苔とお茶、埼玉土建団保組合からコーヒীগフトセット、主婦の会から麵

などを貯めるのにも利用できま
す、③掛金のシミュレーションも可能で、ほとんどリスクがなく毎月5000円以上の掛金でコツコツ貯めることができます。
現在、年金共済35周年キャンペーン実施中で3・5人に1人の割合でプレゼントが当たります。春

類、カレールー、レトルト食品などが提供され、2月5日(木)、第118便として10・8キロをフードバンク埼玉に届けました。
また、埼玉土建さいたま北支部から寄せられた備蓄用缶入りパンを、埼労連フードバンク第119便として2月19日(木)に届けました。

期の申し込み締め切りは5月15日までに入申込書が各共済会本部必着となります。
詳しくは、全労連共済のHPをご覧ください。
ご覧いただくか、所属している組合の共済担当へお問い合わせください。